

(10) いちじく

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 疫病 <i>Phytophthora palmivora</i>	1. 密植を避け、採光、通風を図る。 2. 病枝は切り取る。なお、病葉や病果は土中に埋没する等処分する。 3. 敷き藁等でマルチをする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. Zボルドーには炭酸カルシウム水和剤(クレフノン)を加用する。	5 ～ 7 月 (2 ～ 3 回)	11 21 40 M1 M5	アミスター10フロアブル ランマンフロアブル レーバスフロアブル Zボルドー ダコニール1000
2 黒かび病 <i>Rhizopus stolonifer</i> var. <i>stolonifer</i>	1. 収穫は晴天の日にする。 2. 発病果は集めて土中に埋没する。	収 穫 前	1 M5	トップジンM水和剤 ダコニール1000
3 そうか病 <i>Sphaceloma caricae</i>	1. 樹勢を適正に保つように肥培管理を行う。	5月上旬 ～7月上旬	1 3 11	トップジンM水和剤 トリフミン水和剤 アミスター10フロアブル
4 さび病 <i>Phakopsora nishidana</i>	1. 被害葉は集めて処分する。 2. 結果枝の密度を減らし、通風を図る。	7 月 ～ 9 月	3 3 3 7 11 M5	トリフミン水和剤 ラリー水和剤 アンビルフロアブル フルーツセイバー アミスター10フロアブル ダコニール1000
5 株枯病 <i>Ceratocystis ficicola</i>	1. 罹病苗を持ち込まない。 2. 育苗は未発生地で行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ICボルドー66Dは新根に薬害が発生するおそれがあるので定植1年目までの苗木には使用をさけること。 2. オンリーワンフロアブルは生育抑制などの薬害のおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件や、移植1年目の幼木での使用は避けること。	定 植 時	1 3 M1	トップジンM水和剤 トリフミン水和剤 ICボルドー66D
		生 育 期 (5 ～ 10 月)	1 3 3 M1	トップジンM水和剤 トリフミン水和剤 オンリーワンフロアブル ICボルドー66D
		収 穫 後 ～ 休 眠 期	1	トップジンMオイルペースト
6 切り口及び傷口のゆ 合促進		せん定整枝時、 病患部削り取り 直後及び病枝切 除後	1	トップジンMペースト
7 カミキリムシ類 クワカミキリ キボシカミキリ	1. 成虫の捕殺及び卵、幼虫を刺殺する。 2. 被害の枝を剪除する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. モスピラン顆粒水溶剤はキボシカミキリに登録がある。 2. 園芸用キンチョールEはクワカミキリに登録がある。 3. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	4 ～ 7 月	1B 4A 4A	ガットサイドS モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤
		食 入 後	3A	園芸用キンチョールE

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

いちじく

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
8 アザミウマ類	1. 圃周辺の雑草を処理する。 2. シルバーマルチ等をするとう忌避効果がある。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. コテツフロアブルはヒラズハナアザミウマでの登録である。 2. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発 生 初 期	3A 3A 4A 4A 5 5 13 28	ア デ イ オ ン 乳 剤 ス カ ウ ト フ ロ ア ブ ル モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤 デ イ ア ナ W D G コ テ ツ フ ロ ア ブ ル エ ク シ レ ル S E
9 カイガラムシ類	1. 寄生密度の高い枝を切り落とす。	発 芽 前	UN 4C	石 灰 硫 黄 合 剤 ト ラ ン ス フ ォ ー ム フ ロ ア ブ ル
10 ハダニ類	1. 下草、周辺雑草を処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ピラニカ水和剤、サンマイト水和剤はイチジクモンサビダニにも登録がある。 2. コテツフロアブルはカンザワハダニでの登録である。 3. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発 生 初 期 (5 月 か ら)	3A 10A 10B 13 20D 21A 21A 25A -	ア ー デ ン ト 水 和 剤 ニ ッ ソ ラ ン 水 和 剤 バ ロ ッ ク フ ロ ア ブ ル コ テ ツ フ ロ ア ブ ル マ イ ト コ ー ネ フ ロ ア ブ ル ピ ラ ニ カ 水 和 剤 サ ン マ イ ト 水 和 剤 ダ ニ サ ラ バ フ ロ ア ブ ル サ ン ク リ ス タ ル 乳 剤
11 ハマキムシ類	1. 被害葉は見つけ次第除去する。	発 生 初 期	11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤 デルフィン顆粒水和剤 エ ス マ ル ク D F ク オ ー ク フ ロ ア ブ ル フ ァ イ ブ ス タ ー 顆 粒 水 和 剤 チ ュ ー ン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤 ト ア ロ ー 水 和 剤 C T
12 イチジクヒトリモドキ	1. 葉裏に寄生している若齢幼虫集団を取り除いて処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発 生 初 期	3A 4A	ア デ イ オ ン 乳 剤 モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤
13 ケムシ類		発 生 初 期	11A 11A 11A	デルフィン顆粒水和剤 エ ス マ ル ク D F フ ァ イ ブ ス タ ー 顆 粒 水 和 剤
14 土壌線虫 ネコブセンチュウ	1. 有機物の施用や冬期の耕耘を行い、根の活力を高める。 2. 寄生した苗を本圃に持ち込まない。 3. 汚染場所から線虫類を持ち込まないように注意する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ネマトリンエース粒剤は樹冠下全面に処理し、栽培様式から見て可能であれば、軽く土壌混和し、散水することが望ましい。 2. クロルピクリン剤はパストリア水和剤に影響を与えるので併用しない。 3. パストリア水和剤は生育期のいちじくに使用する場合は、土壌表面散布後灌水等により土壌中に均等に分布させる。	植付前、生育期	1B -(生)	ネ マ ト リ ン エ ー ス 粒 剤 (生) パ ス ト リ ア 水 和 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する